

所外研修⑧ ユネスコ無形文化遺産「組踊」を鑑賞

11月9日(月)に国立劇場おきなわにて、郷土の伝統芸能を鑑賞し、郷土文化についての理解を深め、教員としての資質向上を図ることをねらいとし、第8回所外研修として、「組踊」(国指定重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産)を鑑賞しました。

普及公演「生徒のための組踊鑑賞教室」で、第1部は絵本や昔話を沖縄風にアレンジした「組踊版シンデレラ」、第2部は組踊「花売の縁(抜粋)猿引の場・親子再会の場」を多くの高校生と一緒に鑑賞することができました。

会場参加型で上演されたシンデレラは、「ちょーむかつく」「ワジワジー」「メーゴーサー」など、その場にいる子どもたちにとって、感情を理解しやすい言葉を遣い、ユーモアのある演出で、楽しく鑑賞する中で、組踊の所作について学ぶことができ、「花売の縁」を観る際に役に立ちました。



写真1 国立劇場おきなわにて

教育研究員の感想 (研修日誌から)

組踊鑑賞は2回目ですが、第1部の解説版シンデレラを見て楽しんで鑑賞することが出来ました。それは、誰でも知っている物語の中に、“お互いの肩へ手をやれば抱き合うシーン”“お出かけアイテムは笠と杖”等、組踊の特徴を素人でもわかりやすく伝え、演技に取り入れているからだと思います。組踊を知ってもらう為に演出方法をよく工夫していると感じました。また、組踊は中国の冊封使を歓待するために作られたということで、おもてなしの心ということが、品のある所作に表れているのが良く伝わりました。

組踊は、国の重要無形文化財や、ユネスコの無形文化遺産としても指定されています。このような優れた芸能が沖縄にあるということは誇りで、大切にしていかなければいけない文化だと改めて感じました。(上原亜矢)

国立劇場おきなわで組踊を見ました。会場である国立劇場おきなわは外観も立派で変わったデザインでした。今回で4回目の組踊鑑賞で、「執心鐘入」はみたことがあったのですが、今日の演目は高宮城さん作の「花売の縁」でした。第一部の沖縄版シンデレラでは、誰もがわかるストーリーの中に組踊の決まり事を紹介しながらおもしろい内容でした。今年6月に見た「割符」という演目とは違っていてもっとわかりやすくなっていました。第二部が「花売の縁」です。抜粋でしたが、猿引と猿のかけあいでは、猿の踊りを小さな子が上手に演じていました。また、その後、夫婦が再会する場面の様子も良かったです。

「組踊」という沖縄で生まれた演劇が、国の文化財だけでなくユネスコの無形文化遺産となるなど世界的にも価値があるとされているものですが、なかなか一般の人は鑑賞する機会がないと思うので、児童や生徒を招いてのこのような鑑賞会はとても価値があると思います。これまで児童を連れて2度鑑賞しました。大切な文化をこれからも絶やさないためにも毎年参加していきたいと思います。(久高友弥)

沖縄が誇るユネスコ無形文化遺産にも認定され、世界的にもその価値が高く評価されている「組踊」を肌・目・耳・心で感じる事ができました。鑑賞するのは、今回で2回目となりますが、組踊りが分からない私たちにも歌や音楽、唱えで分かりやすく表現してくださったので、1回目のときよりも、楽しく鑑賞することができました。特に、「割符」沖縄版シンデレラでは、シンデレラ役に観客を抜擢し、会場も一体となって楽しむことができました。

第二部の高宮城親雲上作の「花売の縁」では、携帯電話もない時代に離ればなれになった親子が再会するという感動的な場面があり、家族への愛情は時代を超え、今の私たちも共感することができる内容となっていました。「組踊」というこのような素晴らしい沖縄伝統芸能を私たち教師は、子ども達に伝えていかなければならないと感じました。今日学んだことを現場でも生かせるようにしたいです。

(富名腰由紀)

組踊の解説の為の「シンデレラ」は、組踊のお約束の解説もありすごく楽しめました。家族でも楽しめる内容で今度チャンスがあれば家族みんなで組踊りを鑑賞しに行きたいです。

「花売の縁」では、猿のうごきがすごくリアルでびっくりしました。組踊りの楽器を演奏する方も、息がながい歌を歌いながら踊り手よりも忙しいようにみえました。

来週のクラブでは三線をはじめて習うので、何か一曲弾けるように練習していきたいと思いました。

組踊の台詞の言い回しが琉歌と同じ八・八・八・六調のリズムでつくられている事を初めて知りました。国立劇場おきなわでゆったりとした贅沢な時間を過ごせました。

地域の組踊もあると聞いたので、機会があったら見てみたいです。

(波照間生子)